

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4469243号
(P4469243)

(45) 発行日 平成22年5月26日 (2010.5.26)

(24) 登録日 平成22年3月5日 (2010.3.5)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 85/50 (2006.01)

B 6 5 D 85/50

N

B 6 5 D 25/20 (2006.01)

B 6 5 D 25/20

Q

B 6 5 D 81/38 (2006.01)

B 6 5 D 81/38

B

請求項の数 2 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2004-222062 (P2004-222062)
 (22) 出願日 平成16年7月29日 (2004.7.29)
 (65) 公開番号 特開2006-36323 (P2006-36323A)
 (43) 公開日 平成18年2月9日 (2006.2.9)
 審査請求日 平成19年7月18日 (2007.7.18)

(73) 特許権者 597149054
 株式会社アステックコーポレーション
 愛知県名古屋市中区栄2丁目5番1号
 (73) 特許権者 504290572
 有限会社渡辺商店
 宮城県牡鹿郡女川町鷺神字鷺神浜162-18
 (74) 代理人 100094547
 弁理士 岩根 正敏
 (72) 発明者 加納 隆司
 愛知県春日井市御幸町2丁目4番地31
 株式会社アステックコーポレーション 中央研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 発泡合成樹脂製容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上方に開口し、生鮮食料品を収容する略直方体形状の容器本体の少なくとも一辺の周壁上面に、該周壁に沿って、表示札の下部を嵌挿させるための凹部を形成するとともに、該凹部を画成する外側壁の凹部の両端に位置する部分に、凹部の両端をそれぞれ外部に開放する切欠きを形成し、該切欠きを介して、前記凹部内に嵌挿させた表示札の両側下部を前記凹部からそれぞれ外部に突出させることによって、表示札の下部を湾曲変形させて係止する係止手段を配設したことを特徴とする発泡合成樹脂製容器。

【請求項 2】

前記凹部を画成する内側壁に、前記切欠き間に位置させて、凹部内に突出する凸部を形成したことを特徴とする、請求項 1 に記載の発泡合成樹脂製容器。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、発泡合成樹脂製容器に関するもので、詳しくは、表示札を係止することができる発泡合成樹脂製容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

発泡合成樹脂製容器は、魚介類の新鮮度を保つために、魚介類と共に氷と一緒に入れ、保冷した状態で、運搬、保管するのに使用される。

20

【 0 0 0 3 】

ところで、市場から小売店に運ばれた魚介類は、発泡合成樹脂製容器に入れたまま、店頭に並べられて販売されることがある。

その際に、魚介類の名称，産地，値段，その他の情報を表示する必要がある場合には、それらの情報を記載した表示札を、氷中に差し込むことによって支持させていた。

【 発明の開示 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 4 】

したがって、表示札は、書き込みが可能で、剛性を有し、かつ耐水性を有するものでなければならず、材料が限定されるばかりでなく、安定性及び氷中への差し込み作業性等から、その大きさも限定されていた。

10

また、氷中へ差し込んだ表示札は、魚介類の出し入れに際して倒れ易く、その都度修正する必要があったとともに、氷が融けだすと、表示札を支持することができなかった。

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記した実情に鑑みて、紙等の腰が弱く、耐水性を有しない表示札をも、容易に、且つ安定して支持させることができる発泡合成樹脂製容器を提供することを課題とする。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 6 】

上記した課題を解決するため、請求項 1 の発泡合成樹脂製容器では、上方に開口し、生鮮食料品を収容する略直方体形状の容器本体の少なくとも一辺の周壁上面に、該周壁に沿って、表示札の下部を嵌挿させるための凹部を形成するとともに、該凹部を画成する外側壁の凹部の両端に位置する部分に、凹部の両端をそれぞれ外部に開放する切欠きを形成し、該切欠きを介して、前記凹部内に嵌挿させた表示札の両側下部を前記凹部からそれぞれ外部に突出させることによって、表示札の下部を湾曲変形させて係止する係止手段を配設している。

20

ここで、上記凹部の間隙は、表示札の厚みと同等、またはそれよりは僅かに大きくすることが好ましい。

【 0 0 0 7 】

また、上記した課題を解決するため、請求項 2 の発泡合成樹脂製容器では、上記請求項 1 の発明において、上記凹部を画成する内側壁に、上記切欠き間に位置させて、凹部内に突出する凸部を形成している。

30

【 発明の効果 】

【 0 0 0 9 】

上記した請求項 1 の本発明によれば、凹部と切欠きに、それらの上方から表示札の下部を差し込むことによって、表示札の下部が容器本体に係止される。したがって、表示札は、従来のように氷中に差し込むための剛性，耐水性等を有する表示札でなくてもよく、また、表示札を容器本体へ容易に装着することができ、かつ確実に容器本体に支持させることができる。

なお、この発明の場合には、表示札の下部は湾曲状に係止されるが、表示札の復元力によって、上部は平面状になり、表示情報が読み難くなることはない。

40

【 0 0 1 0 】

また、上記した請求項 2 の本発明によれば、表示札の下部の両側部は湾曲状になるが、中間部は平面状になり、表示札全体を平面的に、かつより確実に容器本体に支持させることができる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 2 】

以下に、上記した本発明に係る発泡合成樹脂製容器の実施の形態を、図面を参照しながら詳細に説明する。

ここで、図 1 は本発明に係る発泡合成樹脂製容器の一実施の形態を概念的に示した斜視

50

図、図 2 は魚介類を収容して展示した状態の容器本体の正面斜視図、図 3 は図 1 における容器本体の X - X 線に沿う部分の断面図、図 4 は図 1 における容器本体の Y - Y 線に沿う部分の断面図、図 5 は表示板を係止させた状態の容器本体の背面斜視図、図 6 は図 5 における容器本体の Z - Z 線に沿う部分の断面図、図 7 は図 1 における蓋体の L - L 線に沿う部分の断面図、図 8 は図 1 における蓋体の M - M 線に沿う部分の断面図である。

【 0 0 1 3 】

図示した本発明に係る発泡合成樹脂製容器 1 は、容器本体 1 0 と、蓋体 3 0 とから構成されている。

【 0 0 1 4 】

上記容器本体 1 0 は、図 1 に示したように、上方に開口 1 1 を有する略直方体形状を成し、矩形状の輪郭を成す周壁 1 2 と底壁 1 3 とによって形成され、発泡スチロール樹脂等によって一体成形されている。

【 0 0 1 5 】

周壁 1 2 の上面は、内周側に、全周に亘る凸条部 1 4 を有し、外周側には、全周に亘る段部 1 5 が形成されている。そして、周壁 1 2 (実施の形態では、相対向する短辺側の壁)の段部 1 5 には、周壁 1 2 に沿った凹部 1 6 が形成されている。そして、この凹部 1 6 には、後述するような表示札 A の係止手段 2 0 が形成されている。

なお、上記凹部 1 6 は、周壁 1 2 の相対向する長辺側の壁、或いは短辺側の壁と長辺側の壁の各々、さらには周壁 1 2 の四辺の壁の全てに形成しても良い。

【 0 0 1 6 】

そして、図 2 に示したように、市場等から運搬された、魚介類 B および氷 C を収容した容器本体 1 0 は、係止手段 2 0 を有する凹部 1 6 に、魚介類 B の名称、産地、値段、その他の情報を表示した表示板 A を係止させた状態で、店頭に並べられる。

【 0 0 1 7 】

上記係止手段 2 0 は、図 1 等 に示したように、凹部 1 6 を画成する外側壁の中間部および両端部に形成された切欠き 2 1 a および 2 1 b、2 1 b と、該切欠き 2 1 a と 2 1 b、2 1 b との間に各々画成された凸部 2 2、2 2 と、凹部 1 6 を画成する内側壁の中間部に形成された凸部 2 3 とによって構成されている。

【 0 0 1 8 】

そして、凸部 2 2、2 3 の両側面における凹部側縁には、図 3 に示したように、傾斜面或いはアール 2 2 a、2 3 a が各々形成され、それらの凸部 2 2、2 3 の上面にも、図 4 に示したように、凹部 1 6 に向かって下方に傾斜する傾斜面或いはアール 2 2 b、2 3 b が各々形成され、さらに、凹部 1 6 の両端を画成する端面にも、図 3 に示したように、外方へ向かって拡がる傾斜面或いはアール 2 4、2 4 が形成されている。

【 0 0 1 9 】

このように構成された容器本体 1 0 では、図 5 に示したように、係止手段 2 0 に、表示板 A の下端を差し込んで凹部 1 6 に支持させる。この状態における表示板 A の下端は、図 6 に示したように、凸部 2 2、2 2 と凸部 2 3 との間で挟み込まれ、両側部が切欠き 2 1 b、2 1 b から外部に突出した状態で係止される。

なお、表示板 A を凹部 1 6 に差し込むに際して、上記した凸部 2 2、2 3 の各傾斜面或いはアール 2 2 a、2 2 b、2 3 a、2 3 b、2 4 は、表示板 A を凹部 1 6 にスムーズに案内する作用等を果たす。

【 0 0 2 0 】

一方、蓋体 3 0 は、図 7 および図 8 に示したように、天井壁 3 1 の下面 (容器本体 1 0 側の面)に、上記容器本体 1 0 の周縁に突設された凸条部 1 4 を収容する周凹部 3 2 を備え、該周凹部 3 2 を画成する内周壁 3 3 を備えている。

【 0 0 2 1 】

また、天井壁 3 1 における下面周縁には、上記容器本体 1 0 の切欠き 2 1 a および 2 1 b、2 1 b に挿嵌される凸部 3 4 a および 3 4 b、3 4 b が各々形成され、凸部 3 4 a の周凹部 3 2 側面の中間部には、上記容器本体 1 0 の凸部 2 3 を逃げるための凹部 3 5 が形

10

20

30

40

50

成されている。

なお、上記凸部 3 4 a および 3 4 b , 3 4 b は、無くてもよい。

【 0 0 2 2 】

そして、この蓋体 3 0 は、その周凹部 3 2 を容器本体 1 0 の凸条部 1 4 に嵌合させ、凸部 3 4 a および 3 4 b , 3 4 b を、容器本体 1 0 の切欠き 2 1 a および 2 1 b , 2 1 b に各々嵌挿させることによって、容器本体 1 0 に装着される。

【 0 0 2 3 】

なお、上記実施の形態では、係止手段 2 0 を、切欠き 2 1 a および 2 1 b , 2 1 b 、凸部 2 2 , 2 3 等によって構成しているが、図 9 に示した変形例のように、上記実施の形態における、凹部 1 6 を画成する内側壁の中間部に形成した凸部 2 3 を、取り除いたものとしてもよい。

10

この係止手段 2 0 A の場合には、図 1 0 に示したように、凹部 1 6 に収容された表示板 A の下部は、その両側部のみが湾曲された状態で係止される。

なお、この場合の蓋体 3 0 は、上記実施の形態の蓋体 3 0 における凹部 3 5 (図 7 参照) が形成されない点で異なるだけで、他は同じとなる。

【 0 0 2 4 】

また、図 1 1 には、係止手段 2 0 のさらに他の変形例を示している。この係止手段 2 0 B は、上記係止手段 2 0 A における凸部 2 2 を 1 つにしている。すなわち、凹部 1 6 を短いものとし、該凹部 1 6 を画成する外側壁の両端部にのみ切欠き 2 1 b , 2 1 b を形成し、中間部の切欠き 2 1 a をなくしている。

20

この係止手段 2 0 B の場合には、図 1 2 に示したように、凹部 1 6 に収容された表示板 A の下部は、凹部 1 6 内において湾曲した状態で係止される。

なお、この場合の蓋体 3 0 は、上記変形例における凸部 3 4 a が形成されない構造となり、また、上記したように全ての凸部 3 4 a および 3 4 b , 3 4 b が無いものとしてもよい。

【 0 0 2 5 】

また、図 1 3 は、本発明に係る発泡合成樹脂製容器の他の実施の形態を示している。

この発泡合成樹脂製容器 1 A では、係止手段 4 0 として、凹部 1 6 を画成する内側壁と外側壁に、図 1 4 に示したように、凹部 1 6 内に突出する複数の凸部 4 1 , 4 2 を千鳥状に配設するとともに、それらの凸部 4 1 , 4 2 の上面に、図 1 5 に示したように、凹部 1 6 に向かって下方に傾斜する傾斜面 4 1 a , 4 2 a を形成している。

30

【 0 0 2 6 】

この場合には、凹部 1 6 に収容された表示板 A の下部が、図 1 6 に示したように、波状に変形された状態で係止される。

なお、この場合の蓋体 3 0 は、上記実施形態のような凸部 3 4 a , 3 4 b の形成は不要となる。

【 0 0 2 7 】

以上、本発明に係る発泡合成樹脂製容器の実施の形態を説明したが、本発明は、何ら既述の実施の形態に限定されず、特許請求の範囲に記載した本発明の技術的思想の範囲内において、更に、種々の変形および変更が可能であることは当然である。

40

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 8 】

【図 1】本発明に係る発泡合成樹脂製容器の一実施の形態を示した斜視図である。

【図 2】魚介類を収容して展示した状態の容器本体の正面斜視図である。

【図 3】図 1 における容器本体の X - X 線に沿う部分の断面図である。

【図 4】図 1 における容器本体の Y - Y 線に沿う部分の断面図である。

【図 5】表示板を係止させた状態の容器本体の背面斜視図である。

【図 6】図 5 における容器本体の Z - Z 線に沿う部分の断面図である。

【図 7】図 1 における蓋体の L - L 線に沿う部分の断面図である。

【図 8】図 1 における蓋体の M - M 線に沿う部分の断面図である。

50

【図 9】本発明に係る発泡合成樹脂製容器の変形例を示した部分的な斜視図である。

【図 10】図 9 における容器本体の N - N 線に沿う部分の断面図で、表示板を係止した状態を示した図である。

【図 11】本発明に係る発泡合成樹脂製容器の他の変形例を示した部分的な斜視図である。

【図 12】図 11 における容器本体の O - O 線に沿う部分の断面図で、表示板を係止した状態を示した図である。

【図 13】本発明に係る発泡合成樹脂製容器の更に他の実施形態を示した部分的な斜視図である。

【図 14】図 13 における容器本体の P - P 線に沿う部分の断面図である。

10

【図 15】図 13 における容器本体の Q - Q 線に沿う部分の断面図である。

【図 16】図 13 における容器本体の P - P 線に沿う部分の断面図で、表示板を係止した状態を示した図である。

【符号の説明】

【0029】

1 発泡合成樹脂製容器

10 容器本体

11 開口

12 側壁

13 底壁

20

14 凸条部

15 段部

16 凹部

20, 20A, 20B 係止手段

21a, 21b 切欠き

22 凸部

22a, 22b 傾斜面

23 凸部

23a, 23b 傾斜面

24 傾斜面

30

30 蓋体

31 天井壁

32 周凹部

33 内周壁

34a, 34b 凸部

35 凹部

1A 発泡合成樹脂製容器

40 係止手段

41, 42 凸部

41a, 42a 傾斜面

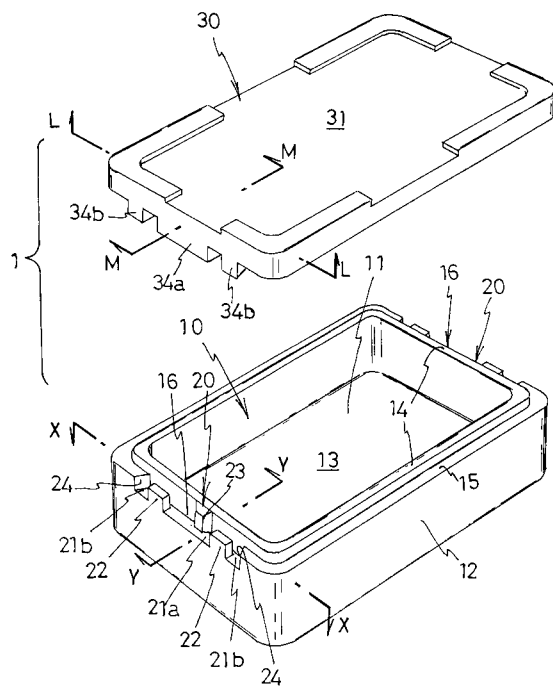
40

A 表示札

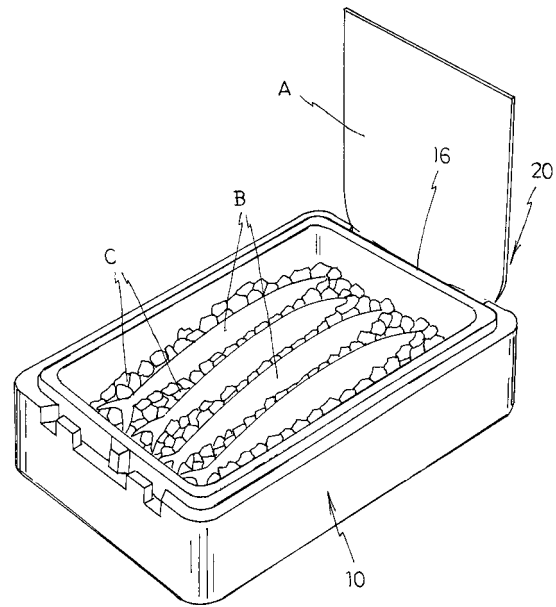
B 魚介類

C 氷

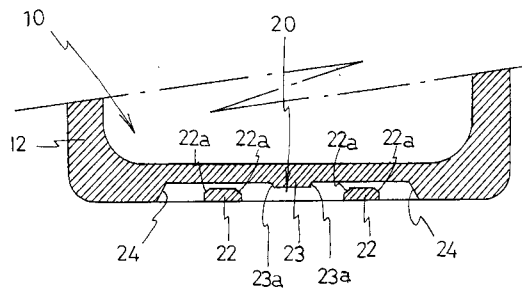
【図 1】



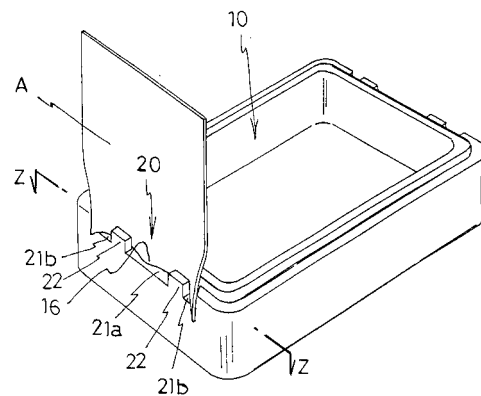
【図 2】



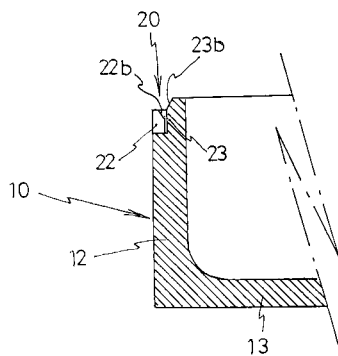
【図 3】



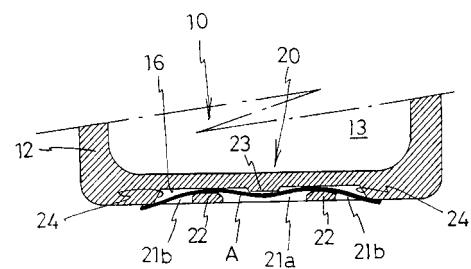
【図 5】



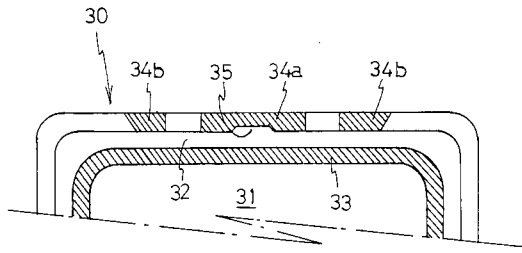
【図 4】



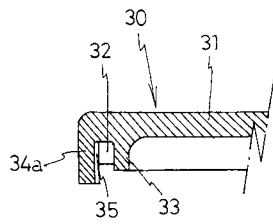
【図 6】



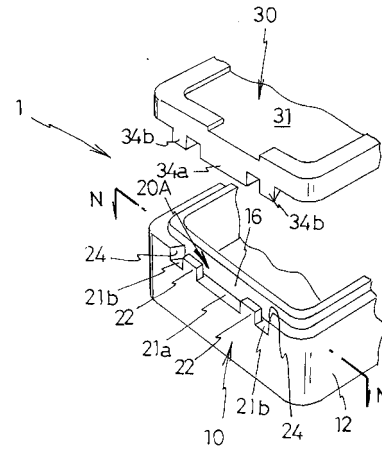
【図 7】



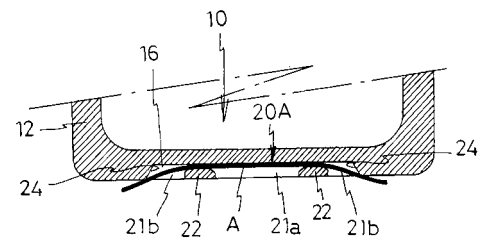
【図 8】



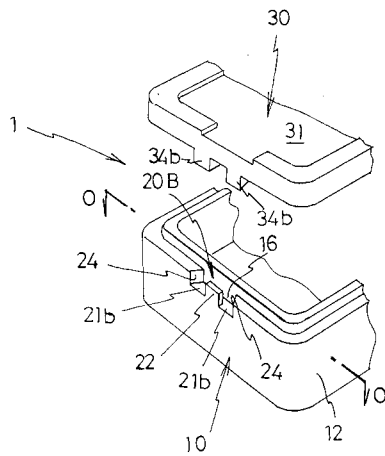
【図 9】



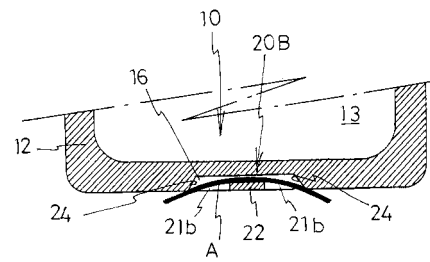
【図 10】



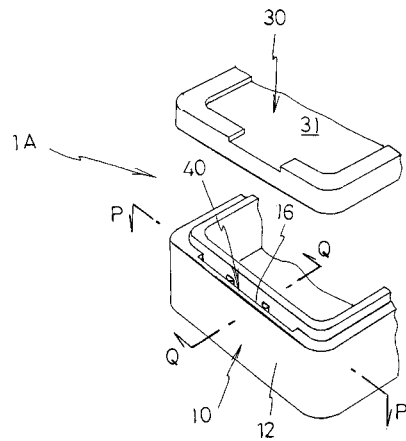
【図 11】



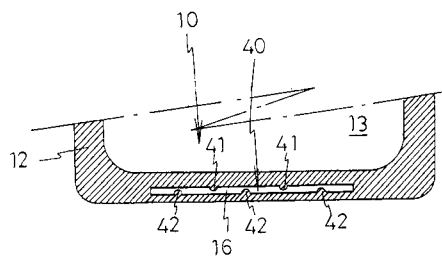
【図 12】



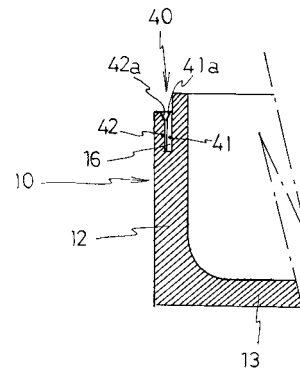
【図 13】



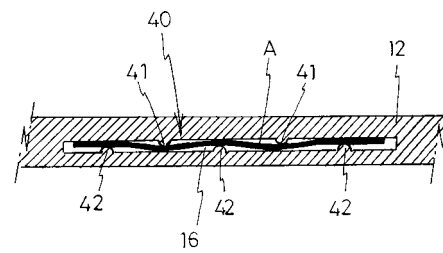
【図 14】



【図 15】



【図 16】



フロントページの続き

(72)発明者 加藤 茂

愛知県春日井市御幸町2丁目4番地31 株式会社アステックコーポレーション 中央研究所内

審査官 村山 達也

(56)参考文献 実開平06-076067(JP,U)

特開2003-204723(JP,A)

実開平06-042678(JP,U)

特開平06-115552(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 85/50

B65D 25/20

B65D 81/38